

2020 TOEIC® セミナー 報告書

学生の将来を見据えた4技能評価の導入
～未来は英語で広がる～

2021年3月15日(月)

学生の将来を見据えた4技能評価の導入 ～未来は英語で広がる～

2021年 3月15日(月) オンライン開催

基調講演 1

「我々は英語公用語化無しには生き残れなかった。」 IT 業界で起きているボーダレスな環境と英語の必要性

HENNGE株式会社 執行役員/Englishnization Evangelist かわみなみ 汾陽 祥太 氏

事例発表 ① 山口大学 8

4技能卒業要件の導入と達成に向けた取り組みについて

山口大学 国際総合科学部 教授 / 教務委員長 川崎 勝 氏

事例発表 ② 近畿大学・近畿大学附属高等学校 15

近畿大学 学園における高大一貫教育について

近畿大学 入学センター-高大連携課長 伊東 徹 氏
近畿大学附属高等学校 教頭 / 高大一貫教育部長 田中 聖二 氏

事例発表 ③ 京都工芸繊維大学 22

京都工芸繊維大学の「英語鍛え上げプログラム」における 4技能の指導と評価

－TOEIC® L&Rと独自開発したSWテストの活用－

京都工芸繊維大学 副学長/工芸科学部長 (分子化学系・教授) 前田 耕治 氏
京都工芸繊維大学 基盤科学系 准教授 坪田 康 氏
京都工芸繊維大学 基盤科学系 助教 神澤 克徳 氏

主催：一般財団法人 国際ビジネスコミュニケーション協会

「我々は英語公用語化無しには生き残れなかった。」IT業界で起きているボーダレスな環境と英語の必要性

HENNGE株式会社 執行役員/Englishnization Evangelist

かわみなみ
汾陽 祥太 氏

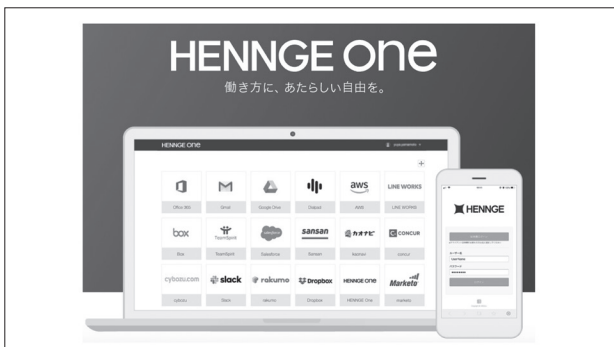


■ クラウドセキュリティサービスを国内外の企業に提供

本日は、当社がたどってきた英語公用語化の経緯と結果についてお話しさせていただきます。

当社は「HENNGE株式会社」という少し変わった名前のIT系企業です。国内外の企業向けに「HENNGE ONE」というクラウドセキュリティサービスを提供しています(資料1)。そこで私は「Englishnization Evangelist」という、やや大仰な肩書を付けさせていただき、社内の英語教育を担当しています。当社は2014年に英語教育をスタートし、今に至るわけですが、それまでは日本人社員のみの企業でした。ですから、私自身も英語は中学校・高校で一通り勉強しましたが、それ以降は一切触れることがなく、英語で仕事をするなどということは全く想像していませんでした。あくまで一般的な日本人だったという点をまずはご理解いただきたいと思います。

(資料1)



■ エンジニア採用難を機に英語を公用語化

当社は2014年に会社の公用語を英語にすることを決めました。もちろん「じゃあ明日からやろう」というのはなかなか難しいと理解していましたので、実施を2016年からとし、約3年かけて一步一步、会社の公用語を英語にしていく計画を進めてきました。

そのきっかけは、エンジニアの採用難でした。当社はプログラミングをしてソフトウェアを作り、それをお客様に届けることを生業としています。しかし、当時はエンジニアの採用に苦慮しており、学校を卒業したばかりの新卒者は当社には見向きもしてくれず、中途採用でもなかなか人材を確保できない状況が続いていました。さらに言うと、当時はIT業界全体が人材不足に見舞われ、当社の社員さえも他の大手企業や新興企業に引き抜かれてしまうことが多くありました。「このままでは私たちの事業そのものが立ち行かないぞ」というほど深刻な状態に陥っていたのです。

そのようなときに偶然、ある留学支援団体からシンガポールの大学でコンピュータサイエンスを学んでいるベトナム人学生を紹介していただきました。大学の授業の一環でインターンシップをしなくてはならないらしく、もともと日本に興味を持っているということもあり、「一度採用してみませんか」とご相談を受けたのです。当社としても「これはよいチャンスかもしれない」ということで、早速採用させていただくことを決めました。

とはいえ、そのときも当然スムーズにはいきませんで

した。今振り返ると大変失礼なのですが、「ベトナムの人って本当に大丈夫なの?」「どれぐらいのスキルがあるの?」といった懐疑的な意見が社員たちから出ました。それを聞いて私たちも「大丈夫かな?」と心配していたのですが、実際に来ていただいたところ非常に優秀だと分かり、驚きました。もしかすると、コンピュータサイエンスに対するスキルは大学卒の日本人を凌駕していたのではないかと思います。その理由を、私たちは後々知ることができました。

実はシンガポールには、シンガポール国立大学、南洋工科大学という有名な大学があるのですが、この2大学は日本でいう東京大学及び東京工業大学、つまり国立のナンバーワン大学、ナンバーワン工科大学で、彼はこの大学に通っていたのです。さらにこの2大学はいずれも、世界的に東京大学や京都大学よりも高いレベルの大学として評価されていることが分かりました。

そのことを知った私たちは、彼に「ぜひ、当社に就職してほしい」と伝えました。ところが、彼からは「すみません。私は今、シンガポールの国から奨学金をもらって大学で勉強しています。シンガポールで就職をしないと奨学金を返済しなくてははいけなくなるので、日本で働くことは難しいです」と断られてしまいました。そこで「もし新卒でシンガポールのIT企業に入社すると、どれぐらい給料がもらえるの?」と興味本位で尋ねてみました。すると「年収でいうと大体約900万円です」と答えたので、私たちは大変驚きました。当時の日本のIT企業の新卒年収は約400万~450万円だったのに対し、シンガポールではその倍、または倍以上の年収が得られるというのです。

そこで私たちはさらに世界の状況を詳しく調べてみました。すると、「GAFA」「GAFAM」と呼ばれているアメリカのGoogleやAmazon、Facebook、Apple、Microsoftのエンジニアの中には、20代で約1,800万~2,000万円の年収を得ている人もいることが分かりました。「世界がこのような状況では、かなわないな。せっかく見つけた金の卵をやはり私たちは採用できないのか」と思ったのですが、1つ救いがありました。

彼に「もしベトナムに帰ることになったら、どれくら

い稼げるの?」と聞くと、年収は約60万円だと教えてくれました。シンガポールで就職すれば年収約900万円もらえますが、ベトナムに帰ると約60万円になってしまふ。これは2014年の話ですから、今は少し金額が上がっているかもしれませんが、それでもこれほどの格差があるということを知り、「アジアの各国には彼のような人がまだいるのではないか」と考え、私たちはフィリピンやタイ、マレーシア、ベトナムなどの国々を直接訪れてみることにしました。そして、各国の国立ナンバーワン大学と国立ナンバーワン工科大学の就職課や就職フェアに行き、状況を確認しました。

すると、キラキラと輝いた目をした優秀な学生が本当にたくさんいました。彼らに「日本で働きませんか?」と問うと、「ぜひ、働きたいです」「僕は小さな頃から日本のアニメを見て育ちました」と日本に強いシンパシーを抱いてくれていました。「これは見つけた!」と思ったのですが、最後にどの国でも皆が口を揃えて言う言葉がありました。「でも、日本語が話せないの、日本で就職することは諦めています」。それを聞いた私たちは「だったら、私たちが英語を話した方が早いのではないか」と考え、会社の公用語を英語にすることを決心しました。

このときの経験を通じて、私たちはアジアの国々のみならず、世界各国の人々が日本に対してとても良い印象を持っていること、日本で働きたいと思っていること、と同時に日本は本当に素晴らしい国だということを実感することができました。

とはいえ、日本には特殊な事情も多くあります。例えば、基本的に単一の民族で構成され、その人たちが皆日本語という統一言語のみを使って生活をしていること、さらに島国の中で培われてきた独自の文化が強く残っていることなどです。私たちはそれらが諸外国の人々が日本を敬遠してしまう理由の1つであることを知り、我々が英語を学ぶことでその壁の1つを取り去ることができるのではないかと考えました(資料2)。

(資料2)

何故HENNGEは公用語を英語にしたのか？

1. ITエンジニアの需要高
2. ソーシャルゲームバブルの勃興
3. エンジニア不足
4. 偶然の海外エンジニアとの出会い
5. IT業界における日本と世界(との違い)を知る
6. 日本の優位性、素晴らしいところを外から知る
7. 日本語、日本という特殊な環境の認識
8. 日本人が英語を習得することを決意

■ TOEIC® L&R 495点から始まった英語教育

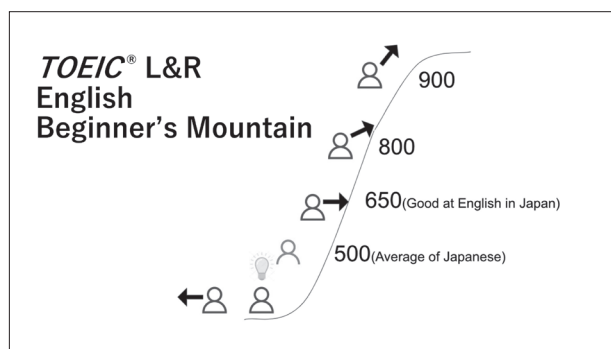
英語公用語化にあたり、まず社内で TOEIC® Listening & Reading Test(以下、TOEIC L&R)の団体特別受験制度(IP: Institutional Program、以下IPテスト)を実施しました。全社員約100人が一斉に受験した結果、平均スコアは495点でした。このスコアが高いか低いかは分かりませんが、まずこの495点を当社のスタート地点として、ここからどうやって皆が英語で仕事ができるようになるかを考えながら進めていくことにしました。

やはり最初は、英語学習に対してなかなか前向きになれない社員や、実際に会社を辞めてしまう社員もいました。また「私は英語を話せるようになりたいのであって TOEIC L&Rの勉強をしたいわけではありません」「私の友人はTOEIC L&Rスコア900点を持っていますが、全く英語が話せません。やはりTOEIC L&Rを勉強しても意味がないのではないのでしょうか」などの意見もありました。

しかし私は、TOEIC L&Rは非常によくできている英語力測定ツールだと評価しています。特に英語初心者にとって取り組みやすく、また分かりやすい指標だと思います。受験者がどれだけ英語学習に取り組んできたかが客観的なスコアで測れますし、全国各地で年10回以上公開テストが行われています。さらに、2020年度からはオンラインでIPテストが実施できるようになっ

たこともメリットだと思います。そこで当社は、TOEIC L&Rを英語学習の軸に据えて活用しながら、Skypeによる英会話教室やスマートフォンでTOEIC L&Rの学習ができる外部のeラーニング教材など、レベルに応じて皆が前向きに取り組めるようなプログラムを用意して、英語教育を推進してきました。

(資料3)



資料3は、私が作成した「TOEIC L&R English Beginner's Mountain」という図です。当社は495点でしたが、約500点が一般的な日本人の平均スコアだと聞いています。ここから650点、800点、900点と、徐々にどうやってスコアを上げていくかということを一生命考えながら取り組んできました。

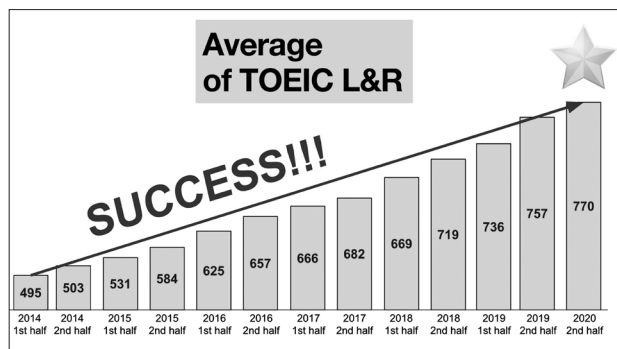
私たちの経験では、社会人として仕事をしながら英語学習をするとすると、1年でこの山を1つ登ることができるというイメージです。ですから、約3年継続すると900点を超えて「英語学習ができる人」というところまでたどり着くのではないかと考えております。

もちろんこれは一般的な事例で、中には先ほどお話ししたように英語学習に前向きではない社員や、頑張ろうと思っても学生のときから英語が苦手で、英語の基礎が十分身につけていない社員もいます。そのような社員には、中学校・高校の文法や語彙から復習してもらい、さらに1年、つまり約4年かけて徐々に登ってもらいます。

当社は半年に1回、社内でTOEIC L&R IPテストを実施しています。その結果、2020年11月には社内の平均スコアが770点まで上昇しました(資料4)。今はこ

の平均スコアを何とか800点にすることを目標として、社員一丸となり取り組んでいるところです。

(資料4)



■ TOEIC® L&R 900点がスタートライン

ここからは少し、厳しいお話をさせていただきます。実は私も、この「TOEIC L&R English Beginner's Mountain」を一步一步登ってきました。TOEIC L&R スコアが800点を超えたときには周りからも、「汾陽さんは英語ができるんですね」と言われたりしていましたが、私自身は台湾や中国、タイ、マレーシアといったネイティブではなく、セカンドランゲージとして英語を学んできた同僚たちの英語スキルとの間に、歴然とした差を感じていました。

そこで、社内のバイリンガルの日本人に相談すると、「ネイティブスピーカーから見たら、450点だろうが800点だろうが、900点はないと、まだまだ Babies ですよ」とはっきり言われました。私はその発言を聞いて「ああ、やはりそうなのか」と思いました。800点で「よし、俺は英語ができるぞ!」とはならないと知った私は「どうやったら900点を超えられるのか」を次の目標にして、900点以上へと進んでいくことになりました。

つまり、仕事で使えるようになるための本当の意味での英語学習は、TOEIC L&R 900点でようやくスタートラインに立てるということです。そこで今、社内ではTOEIC L&R 900点以上及び900点に到達しそうな社員から、一般的な英語学習というよりは、英語を使って

どのように日常業務を行っていくか、または英語を使ってプログラミングやアカウンティングなどの専門技術を深めていくことに注力するようにしています。

では、900点または900点以上を目指すにはどのような取り組みがよいのでしょうか。当社がちょうどこの悩みを抱えていたところに登場したのが、TOEIC® Speaking & Writing Tests (以下、TOEIC S&W) です。「これはいいぞ」と思い、早速取り入れることにしました。当社ではTOEIC L&R 650点を超えた社員から順次TOEIC S&Wの受験を勧めています。TOEIC S&Wでも英語力を評価していくことで、TOEIC L&RとTOEIC S&Wの両方のスコアを上げる、つまり4技能を同時にバランスよく高めていくことをねらいとしています(資料5)。

(資料5)

TOEIC® Programと歩んだ8年間

1. 2014年に受けた団体受験はTOEIC L&R495点
2. 少なくない離脱者
3. Skype英会話導入
4. どうやって英語に前向きになってもらえるか
5. 英語教育担当に名乗り出る
6. TOEIC L&R学習用アプリとの出会いと導入
7. TOEIC S&Wの導入
8. 2020年11月TOEIC L&R社内平均スコア770点

■ 英語公用語化による社内の変化

英語を公用語化してからは、世界中から多くの人材が当社に集まってくれるようになりました。2013年は0%、つまり日本人社員のみ企業だったのが、2019年度には約20%の社員が外国籍になりました。開発部は既に外国籍の社員が約8割を占めています。さらに今は、アジアだけではなく、ヨーロッパや北米、南米まで本当に世界各国から来てくれています。

中でも、新型コロナウイルス感染症拡大前の一昨年の数値になりますが、当社のインターンシップへの応募総数が年間5,000人に達したというのは、驚くべき成

果ではないかと思います。実際に、とても優秀な人々が入社してくれました。例えば、先ほど触れたGAFAの1社に勤務していた人が「やはり日本に来たい。日本で働きたい」と言って当社に入社してくれています。これは本当にすごいことだと思います。唯一「当社は日本語を求めません。入社試験から普段の業務まで、英語でできますよ」と発信するだけで、こんなにも優秀な人材が世界中から集まるということです。

彼らを社員として迎えるにあたり、当社としても社員全員が楽しんで働いてもらえるよう、働く環境を少し変更しました。例えば、これも新型コロナウイルス感染症拡大前のことですが、会社でランチを用意し、皆で食べながら気軽に英語でコミュニケーションを図れる機会を提供したり、ムスリムの社員用に「プレイヤーズルーム」を完備したりすることなどです。各自の好きな食べ物や飲み物を持ち寄って開く社内パーティーの他、節分、ひな祭り、花見、七夕といった日本の様々な伝統行事や文化を皆で共有するためのアクティビティなども積極的に開催しています。

その結果、私たち社員一人一人が、文化や価値観、宗教、そういったものの違いを、身をもって知ることができました。私自身も正直なところ、ムスリムのことをよく知りませんでした。それまではイスラム教徒だと漠然と認識していましたが、ムスリムがどのような考え方に基づいて行動しているのか、なぜアルコールや豚肉を口にしないのかということについては、彼らと直接話をして、一緒に仕事をして、生活をして初めて分かった気がします。そのようなことが非常に多くありました。今は年齢や国籍、性別、宗教といったものに全くとらわれない、個人の能力による評価や仕事ができるようになったと考えています(資料6)。

(資料6)

英語を公用語化したことによる結果

1. 社員の約20%は外国籍、うち開発部は80%が外国籍
2. 世界中から優秀なエンジニアが日本にやってくるようになる。一昨年のインターンシップ応募総数約5,000人
3. 文化、価値観、宗教などの違いを知る
4. 年齢、国籍、性別、宗教などに依らない能力による判断が可能に
5. 多様性の中で働くということを知る

■ **今の日本が抱える課題**

日本の人口はどんどん減少しています。現在の総人口は約1億2,000万人ですが、いずれ1億人を切り、さらに減少していくでしょう。特に、年齢別人口構成図を見ても、日本はピラミッド型ではなく棺桶型と言われるように、20～60代の働く世代を中心に若い世代が非常に少なくなってきています。学校関係者の方々にとっても、この人口問題は各校の存続に大きく関わってくるのではないのでしょうか。子どもの数が減少していく中で、学校としてどう対応し、どのような特徴を打ち出していくのかは非常に大きな課題だと思います。

皆様もお気づきだと思いますが、この10年間で東京などの都市部ではコンビニエンスストアやカラオケ店、居酒屋、ファストフード店などのアルバイトの多くが外国籍の人になりました。実はもうそこまで労働力不足は私たちの身近な問題として迫ってきています。学校教育の現場も、バックオフィスを担う職員の方々だけでなく、ひょっとすると先生や生徒さえも今後ますます外国籍の人々に変わっていくかもしれません。

■ 真の“Englishnization”とは何か

この“Englishnization”という言葉は、楽天グループ株式会社の三木谷浩史氏が作られた造語です。一般的には「英語化」と訳されていますが、決して英語を「話せる」「使える」ことが“Englishnization”ではないと私は考えています。もちろん、グローバルに働くために、英語を話せる、英語をツールとして使えるということは非常に重要ですが、同時に多様性を理解し、受け入れることも欠かせません。多様性を知ること、逆に日本がいかにか素晴らしい国か、私たちはいかにか恵まれた環境にいるのかということを理解することができると思います。

そしてさらに、多様性を受け入れるだけではなく、他のよいところを取り込み、私たちのよいところは彼らに取り込んでもらう。そうして新しい独自の文化を創造し、協働していく環境を作っていかないと、これからの社会はうまく成り立たないのではないかと思います。

■ 日本の教育現場に望むこと

最後に私からお伝えしたいのは「日本の教育界に本場の英語を」、つまり英語を使ってしっかりと世界で通用する人間を育てる教育をしていていただきたいということです(資料7)。

(資料7)

大学・高等学校関係者様へ

1. 英語はあくまでもツール
2. 日本の中だけであれば必要が無いかもしれない?
3. 人口減による問題
4. 個人の能力の問題ではなく仕組みの問題

加えて、私個人としては、高校時代に1度海外に出る、そして大学時代の1年間に交換留学というかたちでも構わないので海外で生活をし、外から日本を知る経験を積んでいただきたい。そのためにも、ある程度英語力の目標は高めに設定し、4技能をバランスよく育成していく必要があると思います。

英語が話せるようになるというのは個人の能力の問題ではなく、やれば誰でもできるようになることだと考えます。英語が話せるようになるための仕組み作りは教育機関の皆様が得意な部分であり、また教育機関だからこそできることというものも多いと思います。ぜひ一緒になって取り組んでいければと考えています。

質疑応答

Q TOEIC L&R 650点を超えたところで TOEIC S&Wに移行した理由を聞かせてください。

A やはり、聞く、読むだけでは不十分で、話せる、書けるということも非常に重要だと考えています。例えば、社内で来週の避難訓練についてアナウンスするとします。「来週避難訓練がありますよ」と英語で文書が書けないと、外国籍の社員は読むことができません。避難訓練に参加しないと、もし本当に火事が起こったときにどうするのかという問題が起きます。ですから、4技能全てが必要なので TOEIC S&Wも取り入れているというのが1つです。

また、TOEIC L&R だけでなく頑張って650点、700点、800点と積み上げていくのはしんどいと思います。そこで、TOEIC S&Wを組み合わせることで気分が変わったり、新たな発見が得られたりして、TOEIC S&Wの勉強をしていたら、結果的にTOEIC L&Rのスコアも上がったというように、英語学習者としてバランスよく学んでいけるのではないかと考えています。

Q 仕事で使う英語と、TOEIC Testsの関連性がありますか。

A 先ほど申し上げたように、私は社内用の文書を書く機会が非常に多くあります。例えば、「今度 TOEIC L&R IPテストがあります。申し込みたい方は、こちらのフォームから何月何日までに申し込んでください。…」という書いているのですが、書いている途中で「あ、これ TOEIC L&RのPart 7だ」と思います。本当にとても役立っています。また、TOEIC S&Wにはメールを書くパートがあるのですが、お客様へのメールもまさに設問と同じように書いています。ですから、TOEIC Testsは勉強のためと思われがちですが、実はとても実用的だと思います。単語や言い回しなども、まさに実際の仕事上で使っているものだと私は体感しています。

Q 貴社では、採用時に TOEIC Testsのスコアや英語力を見ていますか。

A 見ないということはありません。というのも、当社は既に英語を公用語としていますから、例えば、年2回の全社会議は、社長によるスピーチを含め、全て英語で行われます。ですから、本当に英語が何も分からないとなると会社の方針さえも理解できないため、ある程度の基準は設けております。

とはいえ、人物的、能力的に非常に優れているけれど英語はまだまだという人も中にはいます。そういう人にはまず、当社の方針や英語学習に対する理解とやる気を問います。「入社したら、英語学習を頑張ります」と宣言した上で、入社していただくということです。入社後は、レベルに応じた様々なプログラムをうまく活用しながら3～4年かけて徐々に英語力を高めていってまいります。

4技能卒業要件の導入と達成に向けた取り組みについて

山口大学 国際総合科学部 教授/教務委員長 **川崎 勝 氏**



■ 2002年度からTOEIC® L&Rを導入

本日は、山口大学国際総合科学部創設プロジェクトの最終部分となるカリキュラムの策定、そして設置から6年間カリキュラムの責任者として携わってきた立場から、これまでどのような課題に挑み、何をどう変えてきたのかについてお話ししたいと思います。

まず山口大学の概要について紹介します。大学の基本理念は「発見し・はぐくみ・かたちにする 知の広場」です。2020年5月時点の学生数は、学部生と院生合わせて約1万人。今回メインで紹介する国際総合科学部を含め計9学部22学科があり、中国地方の大学としては、比較的学部数を取り揃えているのではないかと思います。

本学の特徴の1つに、他の国立大学に先駆けてTOEIC® Listening & Reading Test(以下、TOEIC L&R)に取り組んできたことが挙げられます。きっかけは、2001年ごろに経済学部が就職指導との兼ね合いでTOEIC L&Rを本格的に取り入れたことです。2002年度にはこれが一気に全学に拡大するとともに、各学部でTOEIC L&Rスコアを卒業要件化しました。本学のTOEIC L&Rを活用した英語カリキュラムは、2004年度には文部科学省の「特色ある大学教育支援プログラム」にも採択され、このときからTOEIC L&Rを軸に英語教育を行う全学体制が確立していました。この取り組みによる成果をさらに高度化させて構築したのが、国際総合科学部における英語教育です。

資料1が本学における現行のTOEIC L&R卒業要件一覧です。現在はさらに、国際総合科学部が先駆けとなって、4技能対応についての全学的な議論をし、試行錯誤を繰り返しているところです。

(資料1)

所属学部・学科等	卒業要件	備考	
人文学部	なし		
教育学部	なし		
経済学部	400	詳細は学部『履修の手引』参照	
理学部	数理科学科	なし	
	物理情報科学科	なし	
	生物・化学科	350	
	地球圏システム科学科	350	4年次進級時に350点必要
医学部	医学科	500	4年次修了時まで500点必要
	保健学科	400	進級要件については学部『学生要覧』参照
工学部	350	4年次進級時に350点必要	
農学部	なし		

■ グローバルスペシャリスト育成を目指して

国際総合科学部は2015年に創設、2021年3月に3期生が卒業しました。さかのぼると、実は新学部創設のプロジェクトは2006年ごろから始まっていました。設立にこぎつけたときには全学的に「本当にできたの?!」という反応で、なんとか日の目を見た次第です。

1学部1学科で、1学年の定員は100人です。2020年春の時点で学生数は434人、教員数は28人です。卒業単位数は125単位で、学部創設時は他学部と同様、卒

業要件として TOEIC L&R 730点を掲げました。このスコアは、グローバル化対応に熱心に取り組んでおられた当時の学長の采配が大きく反映されています。

本学部のモデルとなったのは、秋田県の国際教養大学や全国の私立大学の国際系学部です。ただ、創設に係る交渉の際に、文部科学省からは「私立や公立大学でもできるような新学部の創設は認めない」と言われました。私立大学の国際系学部は2010年前後から各地に数多く創設されましたが、学ぶ内容は人文社会系がメインでした。ですから、本学部はサイエンスの要素を意識したものにしました。設置構想を練っていたときには、まだこのような言葉はありませんでしたが、現在であれば、持続可能な開発目標 (Sustainable Development Goals:SDGs) や科学、技術、工学、芸術、数学の5領域を対象とした教育理念(STEAM)といった言葉が一番当てはまるかもしれません。つまり、データサイエンスや知財教育、デザインシンキングといった要素を重視した、グローバルな舞台で活躍する文理融合型のグローバルスペシャリストの育成を目指した学部ということです。

■ 海外留学要件はTOEIC® L&R 600点以上

国際総合科学部における留学と語学力について説明します(資料2)。

まず卒業要件は、実質的にはTOEIC L&Rスコアを引き続きメインとしています。2019年度以降の入学から英語のみの場合はCEFR B2レベルの語学力と定めています。また、複数言語を習得している場合には、英語はCEFR B1レベル、かつ英語以外の外国語で所定の成績を収めるということも認めています。

(資料2)



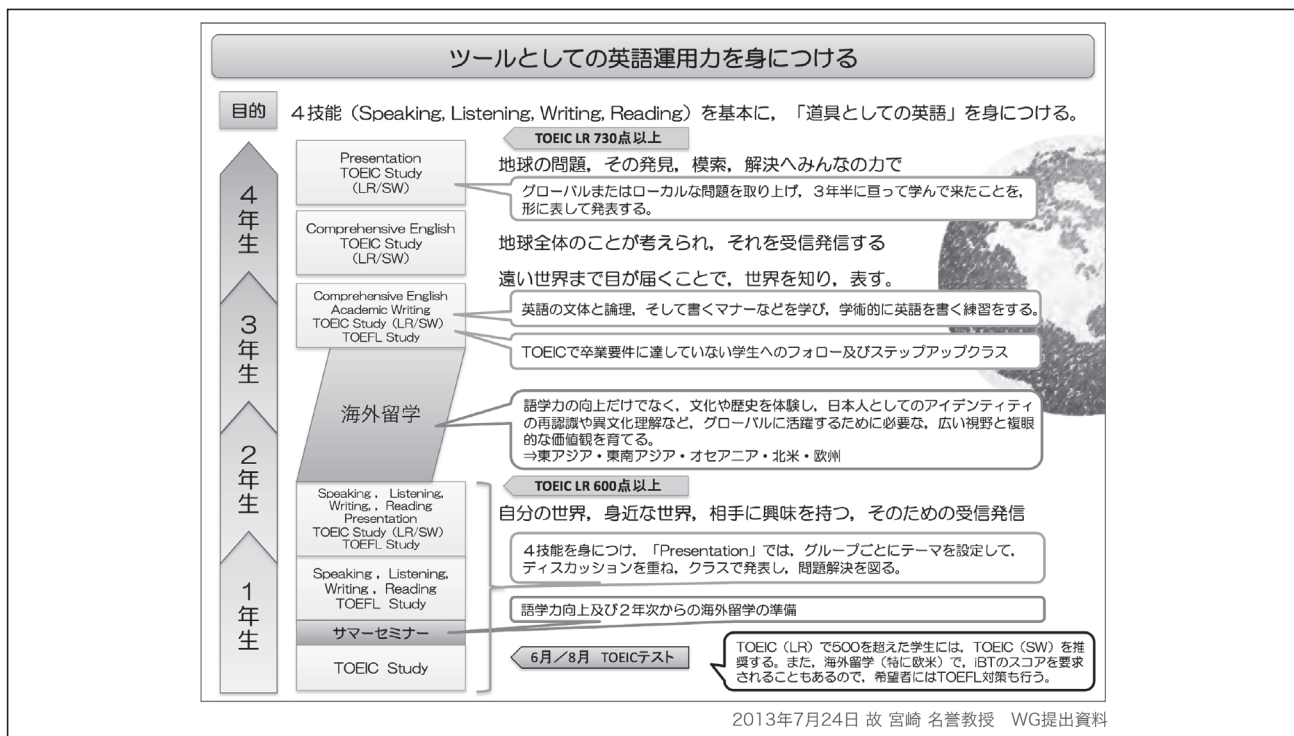
留学は卒業要件ではありませんが、9割を超える学生が2年生の半ばから約1年間留学しています。英語力を身につけるためというよりも、グローバル的視点を養うことが目的です。現在は新型コロナウイルス感染症の影響により中断しています。留学選考は1年生の終わりに実施し、TOEIC L&R 600点を最低ラインとしています。「この留学要件ではハードルが高いのではないか」ということで導入したのが、1年生後期開始前に行う約4週間のフィリピンでの語学研修です。この研修は、1日8時間のうち6時間がマンツーマンレッスンという、非常にハードなプログラムとなっています。

こうした短期語学研修プログラムや留学、最終的には専門の授業も英語で受けることも含めて、様々な機会を通じて学生に英語力を身につけさせていきます。これらの青写真を描かれたのは、本学名誉教授の故・宮崎允保先生です。宮崎先生には21世紀初頭の本学におけるTOEIC L&Rを中心とした全学的英語教育改革、さらに具体的なプログラムの確立にご尽力いただきました。

■ 「道具としての英語」を身につけるために

しかしながら、新学部創設は一筋縄ではいきませんでした。私が新学部創設プロジェクトの責任者として苦慮していた2013年、宮崎先生からいただいた英語教育に関する構想図が資料3です。これが、そのまま本学部に

(資料3)



おける英語教育の全体構想図となっています。

本学はクォーター制を採用しているため、入学して最初の2カ月間はTOEIC L&R受験のための準備期間として、TOEIC L&Rについて解説しながら授業をします。5月末に最初の TOEIC L&R団体特別受験制度 (IP: Institutional Program、以下 IPテスト) を受けてもらい、そのスコアに応じて、各技能を鍛え上げていきます。宮崎先生のお考えとしては、当時から TOEIC® Speaking & Writing Tests (以下、TOEIC S&W) も視野にあったようです。ただ、実施におけるハードルなどから全員に必須で受けさせるのは難しいだろうと判断し、まずは TOEIC L&Rを中心とすることにしました。

学生たちは入学後まず、留学要件である TOEIC L&R 600点を目指して4技能を鍛え、600点以上を取ったら1年間海外に留学します。帰国後もさらに英語力を伸ばしていき、卒業時には最低でも730点以上の力を身につけていることが理想です。ただし、この構想は英語学習のための英語というよりは、むしろコミュニケーションツール、世界とつながっていく手段としての豊かな英語

力を身につけることを目的としています。

英語コミュニケーション科目のうち「TOEIC Study」は1～8があり、4年生まで科目を設定しています。また、1年次の「TOEIC準備」でのスコアが低かった学生には「TOEIC Basic Study」という補習科目の履修を勧め、不足している力を鍛えていきます。資料4はTOEIC Tests 関連科目のコンセプトを一覧にしたものです。TOEIC L&Rを活用しながら4技能に着目して内容の高度化を図り、先ほど申し上げた通り、コミュニケーションツールとしての英語の運用力を身につけていくことを目指します。

(資料4)

授業科目 (TOEIC準備、TOEIC Basic Study、TOEIC Study)	
授業科目の名称	講義等の内容
TOEIC準備	TOEICの各PARTの攻略方法を学ぶことを主眼とし、英語の基礎的能力の習得を目指します。本科目の終了時にTOEICを受験し、結果は評価の基礎とします。
TOEIC Basic Study	TOEICテストの各PARTの前置練習を行いながら、英語の基礎能力の伸展を目指すとともに、基本的文法・できるだけ多くの語彙・発音・速読法などを学びます。本科目の終了時にTOEICを受験し、結果は評価の基礎とします。
TOEIC Study 1	学修者の苦手なPART及び文法・語彙・速読について、集中的に補うとともに、テストへの対処法をさらに学びます。
TOEIC Study 2	スコア600に到達するにどのような学修をしたらよいか学びます。スコア500を超えた学修者は、TOEIC SW Testsに取り組みます。
TOEIC Study 3	TOEICスコア730を目指し、目標とするスコアへ到達するために、いかに早く英語学修を行うかを学びます。
TOEIC Study 4	TOEICスコア700を超えるための科目です。テスト以外に広い英語学修を要求し、語彙獲得、速読力増大のために多読などを行います。
TOEIC Study 5	本格的な速読を学びます。また、listeningにおいても、speedを前提としたlisteningを身につけます。
TOEIC Study 6	TOEICランクA (860) を目指すことを意識して学ぶとともに、SW Testsの大様な模範ができることを目指します。
TOEIC Study 7	Advanced TOEIC Studyとして位置付け、様々なリソースを用いながらTOEICスコア860から900を超えることを目指します。
TOEIC Study 8	Advanced TOEIC Studyとして位置付け、速読力の向上として150WPMのリーディング力を200WPM付近に上げることを目指します。

実は学部創設から最初の4年間、いわゆる完成年度までの期間は、カリキュラムを含めて新学部創設の際に文部科学省の大学設置・学校法人審議会に提出した内容を一切変えることができません。しかし、実際に学部を運営していくうちに、当初の想定とは状況が変わってきた部分も出てきました。

例えば、2021年度の新1年生から大学入学共通テストにおける英語が全面的に改変され、4技能の英語外部試験のスコアを活用することになる予定でした。大学側としては、入学前に4技能試験を受験してきた学生たちに対し、大学入学後の評価基準が2技能では大学における英語教育が退歩したような印象を与えかねないといった懸念もありました。そこで、外部試験導入にあたりCEFRが高校生やその保護者にもかなり普及しましたので、大学の基準はCEFRに準拠した4技能で測ることとしました。

また、本学としてはできる限り多様性を重視したいという考えもありました。コミュニケーションツールとしての英語は非常に重要ですが、英語プラスアルファに取り組む学生に対して、私たちはこれまで十分な教育プログラムを提供できていませんでした。

しかしながら、人数自体はそれほど多くはないものの、留学した学生の中には、英語に限らず留学先の言語にも非常に習熟して帰ってくる学生がいます。そうした学生たちが何のアドバンテージも得られないことへの議論もあり、先ほど述べたように、「CEFR B1レベルの英語力、かつ英語以外の外国語で所定の成績を収めているこ

と」も卒業要件として認めるようにしました。

CEFRは、日本ではしばしば英語の技能を測る基準として活用されていますが、もともとはヨーロッパ圏における複言語・複文化主義に基づいて作成されたものです。CEFR準拠とするならば、その複言語主義の部分も重視したいという判断です。

これらの考えに基づき、2018年に卒業要件を改定し、完成年度後の2019年度入学生から適用としました。ただ、私たちもこれまで長い間TOEIC L&R 730点という数値を強く打ち出してきましたし、入学してみたら急に変わっていたというもおかしいだろうということで、新カリキュラムの実施までは旧基準によるクリアも認めることとしています。なお、新カリキュラムへの移行は、大学入試制度が変わる2021年度からの実施を予定していましたが、新型コロナウイルス感染症によって政府の改革が一時中断してしまったため、実質的には2022年度からの予定です。現在在学している学生と2021年4月に入学する学生は、旧基準と新基準の両方の卒業要件でクリアを認めるようにしたいと考えています。

■ 「英語による学修」を目的とした留学

国際総合科学部の学生の留学状況は資料5の通りです。2019年10月時点で、世界14の国・地域に計89人が留学しています。交換留学生の受け入れ状況は、同じく2019年10月時点で世界13の国・地域から計80人となっています。最多は台湾からの29人です。次いで中国から17人、韓国から11人、タイから6人となっています。

(資料5)

地域	国	人数
欧米	アメリカ	8
	スイス	2
	スペイン	5
	ドイツ	5
	ハンガリー	5
	フランス	3
オセアニア	リトアニア	4
	オーストラリア	1
アジア	モレーシア	3
	タイ	8
	ベトナム	1
	韓国	11
	台湾	23
	中国	10

世界の14の国・地域に計89名が留学中 (2019/10 現在)

留学及び交換留学生の受け入れ状況からも分かる通り、地理的にも歴史的にも非常に東アジア地域と縁が深いのが本学の特徴です。大学院には独立専攻科として東アジア研究科を設置しており、長年東アジアから多くの留学生を受け入れてきました。こうした縁を積極的に活用して、東アジアを中心に、東南アジアにも広げつつ新たな提携大学を求めています。

タイやマレーシア、インドネシアなどの大学を実際に訪れてみると、いずれの国もグローバル化対応や英語教育の重視という点では、日本よりも進んでいるという印象を強く受けました。もちろん当該国における最も優秀な大学だからということもあるかもしれませんが、逆にそうした大学と本学が提携を結ぶことは非常に有益だと考えています。

留学に関しては、English as a medium of instruction (EMI)を重視し、英語による学修が可能な大学を留学先として選定しています。ヨーロッパ域内では各国間留学が非常に盛んで、英語による授業を提供する大学も増えてきています。ですから、できる限り留学先も多様性を保ち、欧米だけに偏ることのないようアジア全域を重視しつつ、国際交流の専門委員会とともに努力しているところです。

■ 卒業要件を独自に TOEIC® Testsスコアに換算

先ほど申し上げた通り、2019年度入学生からは言語卒業要件をCEFR B2レベルとしていますが、各外国語試験はそれぞれ設立の経緯、目的が異なり、各試験の点数を正確に換算することは不可能です。そのため、換算には苦慮しましたが、TOEIC L&Rは990点、TOEIC S&Wは400点が最高スコアですので、本学ではTOEIC S&Wスコアを2.5倍して合計約2,000点とし、1,460点をCEFR B2レベルの言語卒業要件として独自に設定することにしました(資料6)。

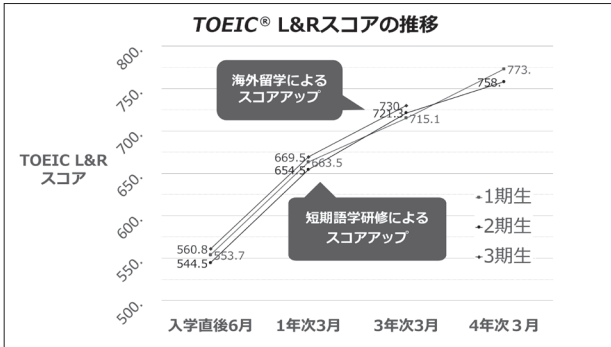
(資料6)

・ 2015年度～2018年度			
TOEIC L&R 730点			
↓			
・ 2019年度以降 (カリキュラム改定までは旧要件での卒業も認める)			
試験	B2	B1	備考
TOEIC L&R S&W	1460*	1150	(L&Rのスコア) + (S&Wのスコア) ×2.5で計算した合計スコア
* 山口大学にて独自で設定 * IELTS、実用英語技能検定も認める			

■ TOEIC® Testsで4技能の 均整のとれた習得が可能に

資料7は国際総合科学部1期生から3期生のTOEIC L&R IPテストスコアの推移を示したグラフです。1期生、2期生、3期生と全体的にはそれほど変わらないスコアで推移しています。卒業要件がTOEIC L&R 730点となっていますので、730点をクリアしてしまうと多くの学生はその後受験しなくなってしまいます。もし、卒業要件クリア後も全員が4年生の最後までしっかり受験してくれば、この推移以上のスコアアップが示されると考えています。

(資料7)



学生たちは入学後の約2カ月間、TOEIC L&Rの授業を受けますが、その直後に受験したTOEIC L&R IPテストスコアは平均で550点前後です。このままだと過半数が留学要件を満たすことができないため、約1カ月間フィリピンでの語学研修に参加してスコアアップを図ります。その後、留学選考が行われるころには平均スコアはおおむね660～670点にまで伸び、約9割が留学要件をクリアします。留学から帰国した後もスコアは上昇していますが、卒業要件を一度満たした学生はその後受験しなくなるといった実情もあり、スコアの伸びは鈍くなっています。

本学では国際総合科学部以外にも全学的に TOEIC Testsを活用しています(資料8)。TOEIC L&R IPテストは本学全体で年5回実施しています。TOEIC S&W IPテストは、2019年度に国際総合科学部が単独で実施しました。2020年度は新型コロナウイルス感染症の影響によりTOEIC L&R、TOEIC S&Wともにオンライン方式で行いました。2021年度以降は、年間2回のTOEIC S&W IPテストの受験機会を提供する予定です。

(資料8)

山口大学における TOEIC® Testsの活用

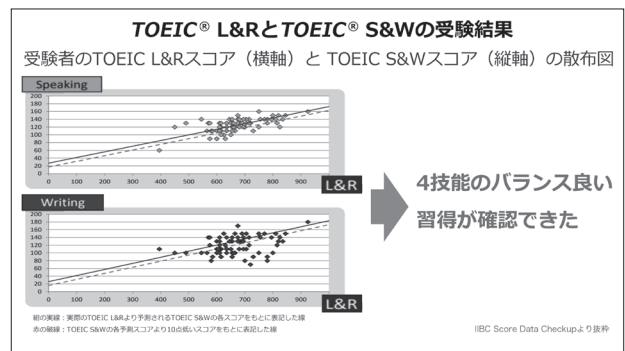
- TOEIC L&R : 全学で年5回、IPテストを実施
- TOEIC S&W : 2019年度、国際総合科学部で独自実施
⇒ 2020年度はコロナ禍を受け、オンライン方式で実施※

※TOEIC L&R IPテスト (オンライン) →卒業要件スコアとして認定せず
TOEIC S&W IPテスト (オンライン) →卒業要件スコアとして認定

2021年度以降、 TOEIC S&Wは年間2回の受験機会を提供予定

2019年度のデータになりますが、約1カ月間のフィリピンでの語学研修を終えた学生たちを対象に、TOEIC S&WとTOEIC L&Rのスコアを比較した結果、バランスの取れた4技能の習得が確認できました。日本では比較的スピーキングが苦手な学生が多い傾向がある中で、本学部においては語学研修の成果がある程度反映されているのではないかと判断しています。一方で、ライティングについてはまだ課題があることも分かりました(資料9)。

(資料9)



■ 英語4技能育成の新カリキュラムへ

今後の抱負としては、先ほども少しお話ししましたが、新カリキュラムとして新たなコミュニケーション科目群を作り上げ、2022年度の入学生から適用する予定でいます。この新しい科目群はコミュニケーション学科目、英語科目、複言語科目の3本柱で構成し、英語科目については原則、レベル別に4技能で実施する予定です。

引き続き、国際総合科学部として高度な英語の運用力が習得できるカリキュラムを円滑に実施することを私たちの最大の使命として取り組んでいきたいと考えています。

質疑応答

Q 4技能試験を学内で実施する際の運営など実務面の詳細について教えてください。

A TOEIC L&R IPテストは、全学的に実施しているところに、本学部も加えさせてもらっている状況です。TOEIC S&W IPテストは2020年度初めてオンライン方式で行いましたが、大きな問題もなく実施できました。今後もオンラインを活用して実施していきたいと考えています。

Q 卒業要件を4技能に変更したことで、学生の学習の姿勢やモチベーションに変化はありましたか。

A 2019年度入学生から卒業要件を4技能にしたのですが、現状はまだ旧卒業要件も加味していますので、厳密には比較できません。しかしながら本学部は、卒業要件がTOEIC L&Rスコアのみだったときから、アウトプットの力を伸ばすことに関心の高い学生が多くいました。ですから、その学生の実態に合うように卒業要件を変更したともいえると思います。

近畿大学 学園における 高大一貫教育について



伊東 徹 氏

田中 聖二 氏

近畿大学における TOEIC® Programの 全学導入とその効用

近畿大学 入学センター-高大連携課長

伊東 徹 氏

■ あらゆる分野を網羅する 日本屈指の総合大学

今日は、高大連携の取り組みのうち、附属高校からの特別推薦入試、いわゆる内部進学を中心に英語教育の導入事例について紹介します。

まず大学についてですが、近畿大学は大阪専門学校と大阪理科大学を母体として、1949年に設立しました。前身の大阪専門学校の設立から数えて、2025年に100周年を迎えます。創設者は世耕弘一。建学の精神として「実学教育と人格の陶冶」を掲げています。幼稚園から大学院、また総合病院も2つあります。近畿という名の通り、メインキャンパスは東大阪に立地し、ここに9つの学部と短期大学部があります。大阪狭山、奈良、和歌山、広島、福岡にもそれぞれキャンパスがあります。

「学びたい者に学ばせたい」という創設者の言葉通り、現在は計14学部、48学科という多種多様な学部系統を取り揃え、医学から芸術まであらゆる分野を網羅する日本屈指の総合大学と謳っています。2020年5月1日時点の在籍学生数は3万3,400人で、文系理系ほぼ同数という総合大学と名乗るにふさわしいバランスの取れた学部構成になっています。

■ 附属高校独自の特色を生かした 内部進学制度を目指して

本学の附属高校特別推薦入試の変遷についてですが、かつての入試はというと、学習成績の状況を示す評定平均や調査書を受験資格としたり、附属高校用の入学試験問題を独自に作成したり、模擬試験の偏差値を使った合否判定などがありました。しかしながら、特に模擬試験の利用にはインターネット上での問題の流出や、成績上位者が他大学を受験する動機につながってしまうなどの課題がありました。さらに、入学前の偏差値と入学後の席次に相関性があまりないことが分かったこともあり、もっと附属高校独自の特色を生かしたものができないかということで約10年前から議論と試行錯誤を続けてきました。

画一的ではない新たな基準や新制度を作るにあたり、大きな柱が生まれてきました。それが、早期から大学と附属高校の相互交流を通じて高大連携を図っていくこと、入学前教育に注力すること、内部進学率を上げることの3つです。

また、高校と大学をより深くつないでいくための新たな取り組みを模索する中で出てきたのが、資格・検定試験の利用です。資格・検定試験によって、基礎学力を担保するとともに、受験生の学力の到達度を幅広く測ることが期待できます。TOEIC® Programをはじめ、日本漢字能力検定や実用数学技能検定、実用英語技能検定、Literasなど、様々な資格によって評価尺度を多元化し、

出願資格を設定する流れができてきました。さらに、問題パターンの多さや社会的認知度といった条件を満たす資格については、特待生基準としても採用することにしました。

そうして選ばれたのが、TOEIC Programです。政府でも大学入試改革についての議論が進められてきましたが、本学ではこの新たな内部進学制度を5年前から導入しています。

本学における附属高校特別推薦入試の出願資格が資料1です。例えば、TOEIC® Listening & Reading Test(以下、TOEIC L&R)とTOEIC® Speaking & Writing Tests(以下、TOEIC S&W)の場合、合計スコアが470点以上だと1点、550点以上だと3点といったようにスコアに応じて得られる点数を設定しています。出願資格には計3点以上が必要で、1つの資格・検定試験で3点を獲得するのはもちろん、複数の資格・検定試験で3点以上を積み重ねることもできるようになっています。

(資料1)

出願資格 法・経済・経営・文芸・総合社会・国際・短大理工・建築・薬・医・農・生物理工・工・産業理工

(1) 人物・学業ともに優秀で学校長が推薦する者
 (2) 出願学部への専願者
 (3) ①高校3学年までに履修すべき科目を履修していること
 ②自校教育として建学の精神、教育の目的、校歌、大学の学部・学科、最新の研究内容を学ぶ一連の教育・学習活動を習得している者
 (4) 資格・検定試験で3点以上を取得した者 (TOEIC Programの基準例)

資格・検定	主催団体	3点	1点
TOEIC L&R/S&W 4技能合計スコア	国際ビジネス コミュニケーション協会	550点以上	470点以上
TOEIC Bridge L&R/S&W 4技能合計スコア	国際ビジネス コミュニケーション協会	163点以上	127点以上

■ 新入生のプレースメントテストに TOEIC Bridge® L&Rを全学導入

内部進学制度の導入と同時に、大学でも、新入生対象のプレースメントテストに TOEIC Bridge® Listening & Reading Tests(以下、TOEIC Bridge L&R)を利用しようという動きが広まりました(資料2)。

(資料2)

TOEIC Bridge® L&Rの全学導入とその効用

新入生プレースメントテストTOEIC Bridge® L&Rの全学導入

【選定の理由】

- ①各学部のカリキュラムや学内の外部試験にTOEIC L&Rを使用
- ②社会的認知度が高く就職に必要なTOEIC L&Rへの連動性も期待
- ③高大接続の強化 (附属特別推薦の出願資格)

※薬学部・国際学部・医学部を除く

そして、導入初年度である2017年度は12学部、約7,000人の実施となりました。もともと、学部のカリキュラムや学内試験の一環としてTOEIC L&Rを活用していたので、プレースメントテストにTOEIC Bridge L&Rを利用することで、TOEIC L&Rとの連動性と高大接続の強化が図られたというわけです。

■ TOEIC® Programを 全学的な英語力の向上に活用

TOEIC Programのスコアは、附属高校特別推薦入試の出願資格だけでなく、特待生に選ばれるための基準としても活用することで、生徒の学習へのモチベーション向上につながっています。さらに、大学入学前のリメディアル教育ではTOEIC Bridge L&Rの受験を全員に課しています。

このように、様々な場面でTOEIC Programの受験機会を作り、全学的な英語力の向上を図るとともに、入学後も大学の語学学習にスムーズに接続できる流れを作り上げました。

その結果、各学部間の英語力の比較が容易になりました。バラバラにテストを実施するよりも、統一の基準を持って取り組んでいけるようになり、全学的なデータの蓄積も可能になりました。また、各学生の入学から卒業までの英語力の把握もできるようになりました。このように、近畿大学ではTOEIC Programを全学的な英語力の向上に活用しています(資料3)。

(資料3)

TOEIC® Programの全学導入とその効用**全学導入の効用**

- ▶ 各学部間の英語力の比較が容易
⇒教育改善にも活用
- ▶ 一過性のクラス分けテストではなく全学的なデータの蓄積が可能
- ▶ 入学から卒業までの英語力の把握が可能

**TOEIC® Programを柱とした
高大一貫教育**

近畿大学附属高等学校 教頭/高大一貫教育部長

田中 聖二 氏**■ 人間育成に主眼を置いた高大一貫教育へ**

近畿大学附属高等学校教頭の田中です。私からは、高校の取り組みについて紹介します。

本校は近畿大学のメインキャンパスに隣接する、生徒数約3,000人の西日本一のマンモス校です。2013年から全生徒にiPadを支給するなどICT教育も推進しています。そのおかげで、今回の新型コロナウイルス感染症拡大時も、生徒の学びを止めずに継続することができました。その他にも、「近畿大学や国公立大学への進学」「高大連携教育の推進」「グローバル教育の推進」「社会貢献マインドを育成する実学教育」などの特色があります。

東日本大震災からちょうど10年になります。この震災を境にパラダイムシフトが起こり、世の中の価値観も大きく変わったのではないのでしょうか。何のために生きるのか、何のために勉強するのか。それは世のため、人のためです。このように思う人が多くなったのではないかと思います。このマインドは、近畿大学建学の精神そのもので、「実学教育」と「人格の陶冶」につながるものです。本校でも約10年前から附属高校特別推薦入試についての議論が始まり、同時に教育そのもののあり方についてもパラダイムシフトが起こり始めました(資料4)。

(資料4)

ちょうど10年ほど前に、**附属高校特別推薦入試制度**の改定議論が始まり、7年前の新入生から新制度に・・・本校教育のパラダイムシフトが・・・

「建学の精神」に立ち戻り、高大連携で人間育成に主眼を置き、社会貢献マインドを持ち、グローバル社会で活躍できる人材育成へ。偏差値に依拠しない教育へシフトし、英語力測定は、**TOEIC L&R, TOEIC Bridge L&R**へ。そして、今・・・時代が求める**4技能評価**へ。

【建学の精神】：「実学教育」と「人格の陶冶」

【教育の目的】：人に愛され、信頼され、尊敬される人を育成すること

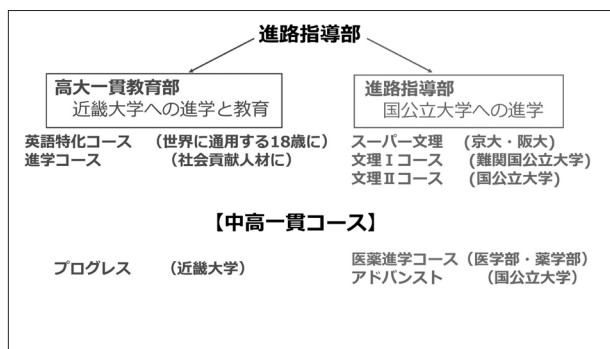
進路指導方針の変遷を端的に言うと「関関同立から近畿大学へ」です。関西地方にある関西大学、関西学院大学、同志社大学、立命館大学の4大学を総称して「関関同立」と呼んでいますが、これら4大学の合格者数を進学校としてのステータスとする風潮があり、本校も約10年前まではその偏差値競争に参戦していました。多いときには本校も延べ600人近くの合格者を出していましたが、現在の合格者数はその1/3以下です。つまり、偏差値重視・管理統制型の生徒指導から離れて、主体性を重んじた育成型へと変わってきたということです。現在は、近畿大学のリーダーとなるような優秀な生徒を1人でも多く近畿大学に進学させ、周りに良い影響を与え、世の中に大きく貢献できるような人材を育成することに注力しています。

■ 新たな指導体制と目指す人材像

その改革議論の際に私が発信したキーワードは「diversity(多様性)」です。アメリカで、ハーバード大学のアドミッション・オフィサーから学んだことですが、「学生たちの集団をdiversityに富む集団にして、良い刺激を与え合う環境にすることが大事だ」ということです。これは、偏差値教育ではできません。受験秀才ではなく、個性豊かで高いモチベーションを持った逞しい人間に育てるとともに、時代に合った付加価値の高い教育をすることで、世界水準の人材育成を目指したいと考えました。

そこでまず、国公立大学への進学を目指す従来の進路指導部とは別に、新たに高大一貫教育部を設けました。私は、この高大一貫教育部ができてからこれまでずっと同部長を務めています。高大一貫教育部が中心となって指導するコースには、英語特化コースが2クラス、進学コースが10クラス、中高一貫コースのプログレスが4クラスあります。合計600人以上の生徒の指導を担当しています(資料5)。

(資料5)



英語特化コースでは、4技能型の実践的な英語力を養い、「世界に通用する18歳」の育成を目標とし、語学力だけでなく、グローバルな視野や論理的思考、コミュニケーション能力を磨き、地球規模の視野で考え活躍できる人材の育成を目指しています。

このコースには3年生が1、2年生に英語で様々なテーマに関するプレゼンテーションをし、その内容やスキルを後輩たちが評価するという取り組みがあります。英語の模擬授業をしたり、学園の自販機を活用して持続可能な開発目標(Sustainable Development Goals: SDGs)について紹介したりするなど、とても楽しそうに取り組んでいます。

■ 近大リーダー育成へつなげる 内部進学制度の理念

附属高校特別推薦入試制度は、近畿大学の建学の精神を軸に据えた高大一貫教育の要であり、社会貢献マインドを持ち、グローバル社会から求められる人材を育成することを理念としています。この制度は、大学との信頼関係で成り立つものですので、担任である高校教員は推薦した者としての責任を持つことが求められ、生徒は「信頼される人」として推薦された自覚と誇りを持つことが期待されています。特待生はさらに、「尊敬される人」でなくてはなりません。ですから、私たち高校教員は近畿大学に進学させることだけがミッションではなく、しっかりと大学での学びについていけることはも

もちろん、さらには近畿大学でリーダーを果たせるような生徒を育成し、推薦しなくてはなりません。学園を卒業するまで推薦者としての責任を持つということで、生徒たちは高校を卒業してからも、3回元担任を訪問して大学での成績やTOEIC Programの各スコア、課外活動の様子などを報告することになっています。

この制度を通じて私たちは近畿大学におけるリーダーを育成しようと指導しているわけですが、さらには社会に出た後も、社会貢献マインドを持ったニューエリートとして頑張ってくれることを期待しています。「偏差値基準を撤廃し、人材育成を重視した附属高校特別推薦入試制度」「自尊心と社会貢献マインドを醸成する自校教育プログラム」「約1万字の卒業論文作成」「高大一貫英語力判定テストとしてのTOEIC Programの利用」、これらが「近高・近大卒ニューエリート育成構想」の具体的な方策です。その他にも、プレゼンテーション大会の実施、授業の双方向化と形成的評価へのシフト、学びに向かう姿勢やそのプロセスを重視し、iPadアプリ「学びの記録」に課外活動も含めて自己成長の振り返りを入力するなど、様々な取り組みをしています。また、国際的な英語教授資格「CELT-S」を取得した教員(約25人)によるグローバル基準の英語教育、Cambridge Englishの指導を近畿大学進学クラスの全生徒に実施しています。

授業以外にも、希望制で実施しているものを含めて様々なプログラムがあります。例えば「近大リーダー育成プログラム」は有志の高校教員が各自のテーマで放課後の90分間に行う活動です。「Mission on the Ground (MoG)」は、カンボジアに行って現地の起業家と共に問題解決プログラムに取り組む研修です。「グローバル人材育成プログラム」は、校内研修を含めて約半年にわたるプログラムですが、最終段階で、アメリカ・カリフォルニア大学バークレー校へ、近年はロサンゼルス校まで行き、キャンパスに隣接した学生寮に1週間宿泊して、現地学生とのセッションを通じて社会貢献マインドやポジティブシンキングなどを学ぶリーダー育成プログラムです。「エンパワーメントプログラム」は、アメリカからカリフォルニア大学の学生を中心に来日してもらって、本校生徒のグループリーダーになってもらい、5日間英語

漬けでグローバルな問題や将来の夢、目標を本気で考えるプログラムです。

生徒をインスパイアして学びの意欲を醸成することを目的とした近畿大学入学前教育も多様です。先ほど高校3年間と大学での成績にはそれほど相関関係がないというお話がありましたが、実は大学1年生の成績と大学2年生以降の成績はかなりの相関関係があります。そのため、いかにやる気を持って大学に進学させるかがとても重要だと考えています。従来は、アクティブラーニング講座「Switch Spring Seminar」を実施していたのですが、2020年度は新型コロナウイルス感染症の影響により集合型の実施が難しくなっていました。そこで、それを逆手に取り「Connecting the New World」と題して、ハーバード大学医学部脳神経外科の先生やアメリカ航空宇宙局の宇宙エンジン開発の担当者など、世界中から講師を招いたオンラインによる講演を行いました。

海外留学制度も、全クラスの希望者を対象とした年間留学の他、英語特化コース対象の3カ月・6カ月留学、コース別の短期英語研修など充実しています。数ある渡航先の中でも、イタリア南部の地中海に浮かぶマルタ島は、20年近く前から利用している研修地で、本校の特色の1つでもあります。

■ TOEIC® TestsとTOEIC Bridge® Testsを 実社会までつなげる英語教育の柱に

実社会までつなげる高大一貫英語教育の柱として、本校でもTOEIC Tests (TOEIC L&RとTOEIC S&W)とTOEIC Bridge Tests (TOEIC Bridge L&RとTOEIC Bridge S&W)を活用しています(資料6)。まず、附属高校特別推薦入試の出願資格としてです。英語力に関しては、TOEIC Bridge L&Rの旧スコアで180点中125点以上、新スコアで100点中59点以上と定めています。2021年度からは4技能のTOEIC Bridge Testsで127点以上と設定しています。学部学科選考基準でもTOEIC Bridge L&Rスコアの占める割合はかなり高くなっていま

す。また、特待生候補基準は、4技能評価となる2021年度以前は、入学金免除がTOEIC L&R 480点、学費全額免除が600点以上となっていて、多くの生徒が特待生候補となっています。入学前教育としてもTOEIC TestsやTOEIC Bridge Testsに関する講座を実施しています。

(資料6)

**TOEIC® Tests, TOEIC Bridge® Testsを
実社会まで繋がる高大一貫英語教育の柱に**

大学受験で終わることのない、
実用英語学習の生涯に渡るマイルストーンとして、
そして高大一貫英語力判定テストとして利用。

1. 推薦基準に
2. 学部学科選考基準に
3. 特待生基準に (入学金免除・学費全額免除)
4. 入学前教育に
5. 入学資格に
6. 大学入学後の全学部共通プレースメントテストに

さらに入学資格として、大学入学前の2月にTOEIC Bridge L&Rを全員受験することが義務付けられています。このときに、過去最高のスコアを獲得することを目指して、11月下旬から12月初旬に合格通知が届いた後も努力を継続するように指導しています。大学進学後は、先ほども話がありましたが、一部の学部を除いて全学的に共通プレースメントテストとして利用しています。

■ スコアから見る学力の向上

資料7は、2021年3月に卒業した3年生のTOEIC Bridge L&Rスコアの推移です。学年が上がるにつれて、各スコアも上がっています。偏差値教育では、このような集団としての成長をみることはできません。

(資料7)

現3年生 TOEIC Bridge® L&Rスコアの成績推移

	Listening スコア	Reading スコア	Total スコア
2019年1月 (1年次)	24 (26)	29 (32)	53 (58)
2020年1月 (2年次)	28 (30)	33 (36)	61 (66)
2020年9月 (3年次)	31	34	65
2021年2月 (3年次)	33	39	72

※文理コース・英語特化を除いたスコア。()内は文理含む

TOEIC Bridge® L&RとTOEIC® L&Rのスコア比較表

TOEIC Bridge L&R	30	40	50	60	70	80	90	91~
TOEIC L&R	~120	210	265	325	400	490	605	610~

スコア比較表をご覧いただく際の注意事項

- この表は日本において、TOEIC L&RとTOEIC Bridge L&R両方を受験した受験者データを基にTOEIC Bridge L&Rスコアから、それに対応するTOEIC L&Rスコアを予測したものです。【スコア換算】
- TOEIC Bridge L&R: 30~100 (TOEIC Bridge Listening Test とTOEIC Bridge Reading Test のテストスコア)
- TOEIC L&R: 100~990
- Educational Testing Service (ETS) では定期的にデータの見直しを行い、必要に応じて資料を改訂する場合があります。
- TOEIC L&Rスコアについてはあくまで目安であり、TOEIC L&Rスコアとして効率的に活用いただくことはできません。

※TOEIC® Program DATA & ANALYSIS 2020

また、現2年生を対象に本校で初めてTOEIC Bridge L&RとTOEIC Bridge S&Wを実施したところ、3月の平均スコアはTOEIC Bridge L&Rが64点、TOEIC Bridge S&Wが69点、4技能合計では133点でした(資料8)。内部進学要件である127点を2年生の時点で達成していることとなります。今後は、4技能を測るTOEIC Bridge Testsの受験機会を1年生1回、2年生2回の計3回設けて内部進学要件スコアへの到達を目指す他、3年生9月にも実施し継続的な学習を促す考えです。

(資料8)

TOEIC Bridge® Testsスコアの成績推移

	Listening 平均スコア	Reading 平均スコア	合計平均スコア
2年生 9月	26 (31)	32 (34)	58 (65)
Speaking 平均スコア	Writing 平均スコア	合計平均スコア	
()内は3年生9月	33	36	69
4技能合計平均スコア			127
	Listening 平均スコア	Reading 平均スコア	合計平均スコア
2年生 3月	29	35	64
4技能合計平均スコア			133

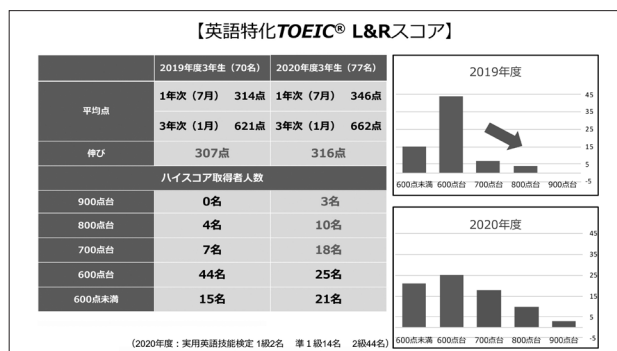
・今後の実施予定

合計3回の受験機会(1年次1回、2年次2回)を設定し、内部進学要件であるTOEIC Bridge L&R/S&Wの4技能合計スコアで127点到達を目指す(3年次9月にも継続学習目的でTOEIC Bridge L&R/S&W実施を予定)

資料9は、英語特化コースの3年生のTOEIC L&Rスコア推移です。2020年度卒の生徒は、1年生7月から3年生1月までの約2年半で平均スコアが316点も伸びています。2019年度卒の生徒も同程度の伸びを示していました。先ほどHENNGE株式会社の汾陽様から「TOEIC L&R 900点をクリアしないとBabiesだ」とのお話がありましたが、900点台を取得した生徒も3人います。600点台が多い理由としてはやはり、600点を特

待生候補の基準に設定しているからでもあります。こうした基準を設定することによって、生徒たちのモチベーションにつなげているということです。

(資料9)



特待生候補生数も年々増加しており、2020年度は出願締切の10月時点で58人でした。その後、1月には85人に増えました。出願締切を過ぎているにもかかわらずスコアが伸びているのは、生徒たちのモチベーションを高めるねらいで10月以降の追加申請も認めているからです。

もちろん、特待生になるには TOEIC Program における基準スコアのクリアが必須ではありますが、建学の精神に適った「尊敬できる人物」であることも不可欠です。本校では、今後もTOEIC Programのスコア獲得をモチベーションに英語力を向上させながら、グローバルコミュニケーションが可能な「世のため、人のため」に貢献するグローバル人材の育成に努めていきたいと思えます。

質疑応答

Q 附属高校特別推薦入試について、さらなる発展として考えていることはありますか。

A 2020年度までは2技能と4技能が混在している状態で出願資格の基準を設けていました。それを今後は4技能に一本化します。英語に関する資格も様々なものがありますので、それらを出願資格として認めていくことになると考えています。

Q 4技能進学要件の導入に対する、高等学校の生徒、保護者、教職員の皆様の反応はいかがでしょうか。

A 特に大きな反対はありませんでした。時代の流れとして受け止められたのだと感じています。ただ、年配の英語教員などからは「ちょっと厳しいのでは」という声も聞こえましたが、特に反対はありませんでした。

Q 高大接続においてTOEIC Programを活用することで良い変化はありましたか。

A 様々な出願者資格がある中で、TOEIC Programを使っている生徒の割合は、最初は40%程度と、実はそれほど多くありませんでした。それからどんどん割合が伸びてきました。特待生候補の要件に設定しているという理由もあると思いますが、他の資格・検定試験はそれほど割合が変わっていない中で、TOEIC Programのみ大きな変化がありました。他校や附属高校の生徒が特待生になることを目標としているということもあり、現在は7割ほどの利用率になっています。TOEIC Programの利用率の高まりからも、効果が表れているのではと感じています。

京都工芸繊維大学の 「英語鍛え上げプログラム」に おける4技能の指導と評価 —TOEIC® L&Rと独自開発した SWテストの活用—



前田 耕治 氏 坪田 康 氏 神澤 克徳 氏

スーパーグローバル大学創成支援事業による大学の国際化への取り組み

京都工芸繊維大学 副学長 / 工芸科学部長 (分子化学系・教授)

前田 耕治 氏

■ 大学の国際化の3本柱

副学長の前田です。私からは、京都工芸繊維大学の国際化に向けた全学的な取り組みについて報告します。

本学は2014年度に文部科学省のスーパーグローバル大学創成支援事業(SGU)のタイプB(グローバル化牽引型)に採択されました。2014～2023年度までの10年間、支援を受けながら大学改革と国際化に取り組んでいます。その柱となっているのが「人材の魅力化」「カリキュラムの魅力化」「場の魅力化」の3つです(資料1)。

(資料1)

目次	◆人材の魅力化
	(1) 教員の長期派遣 (海外教育連携教員派遣)
	(2) 職員の海外業務研修、語学研修及びTOEIC L&R試験
	◆カリキュラムの魅力化
	(3) 英語学習プログラム
	(4) 英語スピーキングテスト
	(5) 国際化モデル研究室による大学の国際化
	(6) 学生派遣プログラムの実施
	(7) ジョイント、ダブルディグリープログラム
◆場の魅力化	
(8) 多言語多文化学習事業	
(9) OPEN-TECHシンポジウム	

■ 教員や職員の国際化に TOEIC® L&Rを活用

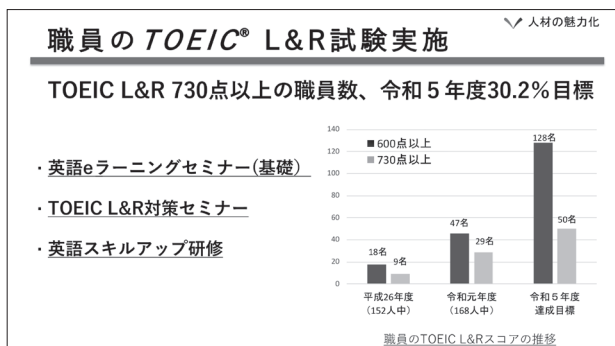
まず、人材の魅力化については、教員の長期海外派遣と職員の長期海外業務派遣・短期海外語学研修及びTOEIC® Listening & Reading Test (以下、TOEIC L&R)の受験義務付けを主な柱としています。

教員の長期海外派遣制度は、毎年約10人の派遣を目標としています。2015年度から現在までに延べ47人を約1年間派遣しました。教員全体の3人に1人が外国での教育研究歴を持っていることとなります。これにより、教員の英語による教育力の向上、授業の国際化、海外教育機関とのネットワーク強化を図っています。特に、海外協定校数は2014年度の54校から2019年度には100校へと倍増しました。この他、国際共著論文や国際学会での学生の発表数も増加しています。

職員の国際化については、2015年度から海外業務研修ということで海外協定校へ9人、フィリピン・セブ島での語学研修に6人の職員を派遣しました。また、職員にTOEIC L&Rの受験を義務化し、英語力の向上を図っています。2023年度にはTOEIC L&R 730点以上の職員数を30.2%まで引き上げることを目標としており、そのためeラーニングセミナーやTOEIC L&R対策セミナーを学内で実施しています。他にも、「大学コンソーシアム京都」と連携し、英語スキルアップ研修などにも参加しています。その結果、730点以上の職員数が2014年度には9人だったのが、2019年度には29人まで増加。600点

以上の職員は18人から47人に増えました(資料2)。

(資料2)



■ 国際交流、海外大学との連携でカリキュラムを充実

2つ目のカリキュラムの魅力化についてです。「英語学習プログラム(英語鍛え上げプログラム)」と「英語スピーキングテスト」は後ほど紹介しますので、私からは「国際化モデル研究室による大学の国際化」「学生派遣プログラム」「ジョイントディグリー、ダブルディグリープログラム」について紹介します。

「国際化モデル研究室による大学の国際化」とは、常時、留学生やポスドクが複数人在籍し、学内の国際化を牽引する研究室を「国際化モデル研究室」として指定するものです。対象となる研究室は、先ほどご紹介した長期海外派遣制度に参加した教員の所属研究室や、学内の公募で選定しています。これまで88の研究室を指定し、外国人の短期受け入れプログラムや、海外研究者との共同ゼミの実施、学生による国際学会での発表などをサポートしています。

「学生派遣プログラム」には、学生の国際交流のさらなる促進と、海外で働くという新たな職業観の醸成をねらいとしたグローバルインターンシップがあります。2019年度は約180人がアメリカ、フランス、タイなど15カ国の大学で専門性を生かしたプログラムに参加し、帰国後単位を取得しました。また、7人がタイの日系企業12社でインターンシップに参加しました。

本学だけでなく、海外大学の学位も取得できる「ジョイントディグリー、ダブルディグリープログラム」も制度化しています。2017年度には、博士前期課程では国内初となるタイ・チェンマイ大学博士前期課程とのジョイントディグリープログラムを、建築関係の専攻で開設しました。その他、イタリア・トリノ工科大学博士前期課程及びイタリア・ベニス大学カフォスカリ校の博士前期・後期課程ともダブルディグリープログラムを開設しています。

■ 国際化を推進する多彩なイベントを企画・実施

3つ目の場の魅力化には、「グローバルコモンズ(多言語文化学習事業)」と「OPEN-TECHシンポジウム」があります。グローバルコモンズは、多言語・多文化について学べる環境を提供するものです。「Mカフェ」という場を図書館内に設け、韓国語やフランス語、ベトナム語、タイ語、英語、イタリア語などを話す留学生に協力してもらい、多様な文化に触れるイベントを開催しています。民族衣装を着たり、様々な食文化を味わったりして参加した日本人学生たちと交流しています。ここは、留学渡航前の準備や留学で身につけた語学力を帰国後も維持する場としても役立っています。

OPEN-TECHシンポジウムは、人材の交流や共同研究を地域社会に還元することを目的として、世界一線級の研究者を交えて開催する国際セミナーです。本学と国内外の研究者、地元企業との関係者による産学協働で開催しています。2015年度からこれまでに延べ72回開催し、学外参加者は1,570人に上ります。

「英語鍛え上げプログラム」の展開

京都工芸繊維大学 基盤科学系 准教授

坪田 康 氏

■ 確かな英語力を育む全学生対象の英語教育

SGUに採択された本学は、わが国の高等教育の国際競争力向上をリードする重責を担っています。その一環として、教育研究における海外大学との連携強化、海外インターンシップ参加率の飛躍的向上などを目指していますが、その基盤となるのは確かな英語力です。また、大学そのものの国際競争力向上を目指すためには、全学生を対象としたプログラムであることが必要です。こうした背景から通常の授業を通して目に見える英語力の上達を保証するために企画したのが「英語鍛え上げプログラム」です。

このプログラムは、学部1、2年生を対象に授業準備や課題、テストなどに関する要求度が極めて高い、つまり大量の学習時間を要する授業を、全科目・全クラスで展開します。特に、大量のインプット(聞く・読む)による上達の保証や「上達した!」という実感による学習意欲向上、3年次以降に向けた自律的学習につながる学習法と学習習慣の定着の3点を重点としています。

具体的な授業科目は資料3の通りです。本学では、2年生後期修了までの2年間で4種類の英語科目を履修します。

(資料3)

英語鍛え上げプログラム：授業科目	
Career English (必修) 最終目標：TOEIC L&R730レベル(※)への多様なパス TOEIC L&R一斉受験 (2年次後期末) Career English Advanced 目標：TOEIC L&R730レベル突破 TOEIC L&R一斉受験 (2年次前期末) Career English Intermediate 目標：TOEIC L&R630レベル突破 TOEIC L&R一斉受験 (1年次前期末) Career English Basic 目標：学習方法を集中的に習得	Active English (選択) 2年後期 実践的運用能力向上を目指した多様な科目群 Listening & Speaking, Reading, Writingの他、CLIL (科学的手法, 環境学, 文学など) PBL (ロボットを作る, ウェブサイト作成) など Academic English (必修) 1年後期 学術的な英語を志向 (基礎固め) + eラーニング (Reading, Listening, 文法課題) Interactive English A, B (必修) 1年前後期 円滑な口頭コミュニケーションを志向 (会話中心) Extensive Reading (年間約20万語) スピーキングテスト (CBT)

1つ目は「Career English」です。SGUの目標では、半数の学生がTOEIC L&R 730点以上取得することを掲げていますが、その目標に呼応する科目です。「Basic」「Intermediate」「Advanced」の3科目があり、それぞれ目標スコアを設定しています。「Basic」は英語の学習方法を学ぶことが目標です。本学は大学院入試でもTOEIC L&Rスコアを活用しているため、学生たちには学部4年間をかけて、たゆまぬ努力を継続してもらう必要があります。授業時間だけでは全く足りません。そこで、最初のBasicでは、TOEIC L&Rの重要性や学習方法についての理解を促し、学習習慣の形成を図っていきます。

Intermediate、AdvancedのTOEIC L&R目標スコアはそれぞれ630点、730点となっていますが、授業を受ける前に試験で目標スコアを取得した場合は、その科目がS評価で単位認定される仕組みも導入しています。これにより、学生は英語学習について各自でフレキシブルな計画を立てることができるようになっています。

2つ目は、ネイティブスピーカー教員が担当する「Interactive English A, B」です。1年生の必修科目で、円滑な口頭コミュニケーション力の育成を目標としています。年間約20万語を読破する多読プログラムの他、後期には本学で独自に開発したCBTスピーキングテストを行い、自らの英語力が測定できるようになっています。

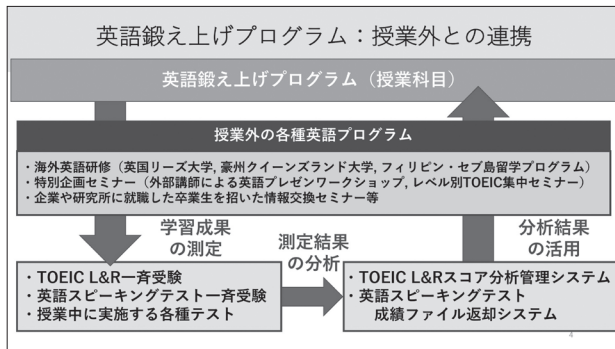
3つ目は、1年生後期の必修科目である「Academic English」です。模擬講義やTEDの内容を扱った教科書を用いて学術的な英語を学ぶ他、補助教材としてeラーニングの課題もあります。

4つ目は、2年生以降の選択科目である「Active English」です。実践的英語運用能力向上を目指して多様な科目群を提供しています。聞く、読む、話す、書くの各技能に特化した授業以外にも、科学的手法や環境学、文学などをテーマとした内容言語統合型学習(CLIL)、ロボットやウェブサイトの作成をテーマとした課題解決型学習(PBL)も用意しています。

学生の意識向上と様々な英語学習の機会の提供を目的とした、授業外の英語プログラムもあります(資料4)。海外英語研修をはじめ、「レベル別TOEIC L&R集中セミナー」などの特別企画セミナー、卒業生を招いた情報

交換セミナーなども随時実施しています。また、これらによる学習成果を定期的に測定・分析し、データに基づいたプログラムの改善を図っています。

(資料4)



■ 学生はもちろん、教員にとっても過酷なプログラム

「英語鍛え上げプログラム」の特徴は、膨大な課題と反転授業にあります。学習の主体は学生です。ですから、授業（教員）の役割は学習の方向性の提示や、成果の確認、学習の持続サポートにあるという認識のもと、プログラムを実施しています。一例として、「Academic English」のシラバスを紹介します。学習目標の1つに「各自の目標に向かって、自律的に英語学習を継続できるような習慣と学習法を身につける」ことを掲げています。授業は受講生全員が指定された課題を完了していることが前提で、前回の授業内容の理解度を確認する小テストや、定期的な英語によるプレゼンテーションも課しています。評価基準は小テストが50%、課題が30%、eラーニングの追加課題が20%です。

TOEIC L&Rの一斉受験など定期的な到達度評価も重視しています。長期休暇中も休まず様々な課題を提示して継続的な英語学習の機会を提供しています。

また、このプログラムに立ち向かう学生たちを様々な取り組みによって支援しています(資料5)。その1つが「賢明な英語学習者の育成」です。入学時のオリエンテーションや導入科目で、世界の英語使用の実態やリンガ

ランカ(共通語)としての英語を学ぶ心構え、キャリア形成における英語の重要性、第二言語習得のメカニズムなどについて説明し、英語に対する意識を高めます。TOEIC L&Rスコア分析管理システムも導入しました。学生は自らの英語力を客観的かつ相対的に把握することが容易になり、充実した学習計画の作成が可能になります。また、英語学習の気運を醸成するために、各種行事を企画・実施し、その内容や成果を英語科のホームページや広報紙「SGU通信」、全学向けメールなどで積極的に広報しています。

(資料5)

英語鍛え上げプログラム
なぜ学生はhighly demanding programに立ち向かうのか？

■賢明な英語学習者の育成

入学時のオリエンテーションや導入科目「工芸科学基礎」等において、世界の英語使用の実態（超中心性と弊害）、リンガランカ（共通語）としての英語を学ぶ心構え、キャリア形成における英語の重要性、第二言語習得のメカニズム（インプットやインタラクションの重要性）等への理解を深めています。

■TOEIC L&Rスコア分析管理システム

全学生のTOEIC L&Rスコアをデータベース化。学生は自分のTOEIC L&Rスコアの推移や所属課程内の順位、全学・課程のスコア分布を確認可能。学生は、自らの英語力を客観的かつ相対的に把握することにより、充実した学習計画が可能に。

■学内の雰囲気醸成

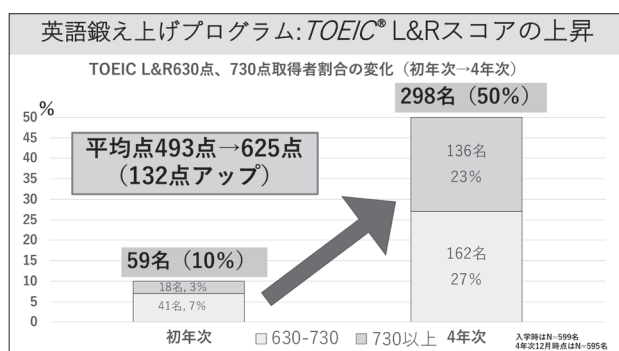
プレゼン、工学英語、TOEIC指導などの専門家を招いたセミナー、海外研修や外部テストによる単位認定制度、eラーニング、Extensive Reading等を有機的に統合した「KITnet6英語学習サポートシステム」や各行事の内容や成果を英語科HP・SGU通信・全学向けメール等で積極的に広報。「英語は重要」「勉強せねば！」という雰囲気学内に醸成しています。

学生にとって“しんどい”授業は、教員にとっても大変なもの。そこで、独自の補助教材を教員間で共有するなど授業運営をシステム化しました。非常勤講師の負担軽減を図りながら、クラスを横断した授業の均質化も図っています。優秀なティーチングアシスタント(TA)の雇用も重要です。教員の負担軽減だけではなく、TA自身の英語学習意欲もさらに高まりますし、英語の得意な学生が学年や専門分野を超えて交流することにより、大学全体に好影響を与えています。

■ プログラムの成果と課題

「英語鍛え上げプログラム」の成果が資料6です。初年次のTOEIC L&R平均スコアは493点だったのですが、卒業時点では625点となり、132点の上昇が見られました。630点以上の学生の割合は10%から50%に増加。730点以上の割合は23%と、SGUの目標達成には道半ばですが、成果としてはまずまずと受け止めています。

(資料6)



優秀な成果を上げた学生の一例を挙げますと、入学当初570点だったMさんは4年生時点で905点を取得しました。Wさんは365点から810点までスコアを伸ばしました。2人ともTOEIC L&R、ひいては英語学習の重要性を十分認識し、授業で培った学習習慣や学習法を生かしてコツコツと積み上げてきた成果が現れた結果だと思います。また、学生の授業評価アンケートの回答からも、情け容赦のないプログラムだけでも達成感があり、結果も付いてくることを実感している様子を見ることができました。

しかしながら、このプログラムにはまだまだ課題もあります。2020年3月に新カリキュラムの1期生が卒業し、今回このような分析をしました。深い分析はまだできていません。また、英語の苦手な学生のサポートや専門科目へとシフトする学部3、4年生の対応も重要です。また、アウトプットやインタラクションを増やす工夫、専任教員の負担軽減、非常勤講師との連携強化などについても今後検討していきたいと考えています。

■ 独自の英語SWテストの開発と運営

京都工芸繊維大学 基盤科学系 助教

神澤 克徳 氏

■ 独自のCBTテスト開発とその課題

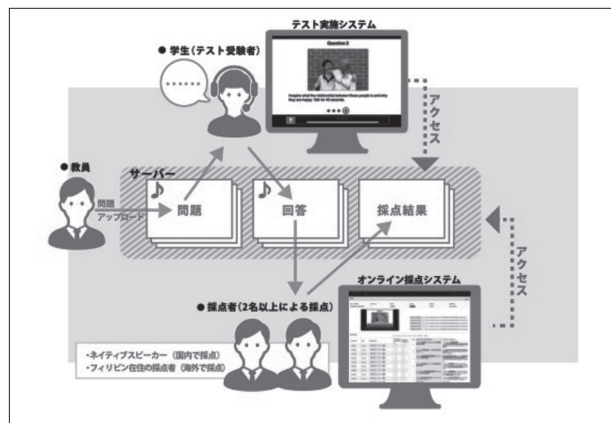
私からは、本学が独自に開発・運営しているコンピュータ方式による英語のスピーキングとライティングのテストについて紹介します。

まず、スピーキングテストについてです。2020年度は新型コロナウイルス感染症の影響によりオンラインによる在宅実施となりましたが、例年は学内の情報演習室で実施しています。1年生約600人の必修科目の学期末テストとして年1回行い、スコアを科目の成績に10%分加味しています。

開発は2012年度にスタートしました。当時、聞く、読むはある程度できるが話すのが苦手という学生が多くいたため、学生の発信力を伸ばすことがねらいでした。また、本学には卒業後アジア圏を中心に海外で活躍する学生が多くいます。こうした事情を考慮して、母語の違う者同士の共通語としての英語力を測ろうと、テストの独自開発に乗り出しました。約3年の準備期間を経て2014年度に第1回テストを実施し、これまで1年生を対象に計7回、AO入試・総合型選抜入試で計4回実施し、延べ5,244人が受験しています。

資料7がテスト実施システムの全体像です。

(資料7)



テスト当日、受験生はアプリからサーバーにアクセスし受験します。解答音声はサーバーに送られ、採点者によりオンライン採点システムを使って採点されます。

テストは計3パート、合計9問で構成されています(資料8)。パート1は提示される写真に基づいて解答する問題、パート2は会話を聞いてその内容を要約し自らの意見を述べる問題、パート3ではプランニングタイムを用いて、自らの考えや意見を整理し理論立てて論じる問題です。各タスクは、学生たちが各自の研究室や将来の就職先でリンガフランクとして英語を使う場面を想定し、作成されています。

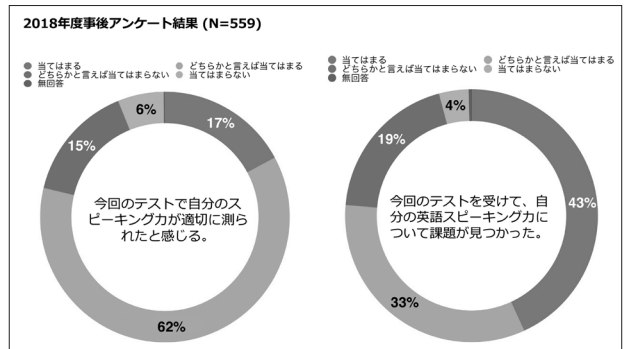
(資料8)

問題番号	テーマ	プロンプト	リハーサル(秒)	回答(分)	21 st century skills: Learners should ...	Spoken language proficiency: Learners should ...
1	Imagine 想像する	Photo 写真	0	45	think creatively and demonstrate originality 創造的に考え、独創性を発揮する	speak coherently and clearly 流暢を立てて明確に話す
3	Compare 比べる	Two photos 2枚の写真	0	45	analyse alternatives and draw reasonable conclusion 選択肢の特徴を見きわめ、合理的な結論を下す	compare, decide and justify 比較し、決断し、理由を述べる
4	Identify different values 価値観の違いを見きわめる	Audio dialogue & photos 会話音声と写真	0	45	understand diverse values and perspectives 多様な価値観や見方を理解する	summarise and contrast different points of view 異なる意見を要約し、対比する
5	Take position 立場を定める	Audio dialogue & photos 会話音声と写真	0	60	evaluate arguments and decide own position 対立する意見を客観的に評価し、自らの立場を定める	state and justify own position 自らの立場を明らかにして、正当化する
6	Identify problem 問題を発見する	Audio dialogue & photos 会話音声と写真	0	45	interpret information to identify problem 情報を適切に解釈して、問題点を見きわめる	describe problem 問題を説明する
7	Problem solving 問題を解決する	Audio dialogue & photos 会話音声と写真	0	60	find solution to problem 問題の解決法を見いだす	propose solution to problem 問題の解決法を提案する
8	Plan and organise 立案する、企画する	Nil なし	60	60	identify and organise component parts to make a plan 目標達成に必要な作業や手順を見きわめ、計画を立てる	suggest a plan and series of steps to achieve goal 目標達成に向けた道筋や手順を提案する
9	Persuade 説得する	Nil なし	60	60	promote and influence 奨励して、他者を動かす	persuade by presenting a positive image and message 肯定的なイメージやメッセージを伝えて、他者を説得する

採点は、全解答音声に対しネイティブスピーカーとノンネイティブスピーカー各1人によるダブルマーキングで行います。事前に採点者トレーニングも徹底し、採点の信頼性確保に努めています。評価基準は、問題で求められているタスクが達成できたか、流暢さなどの伝え方が適切だったかの2つでそれぞれ0～5点の6段階で評価します。

事後アンケートによる学生の評価はおおむね肯定的で、コンピュータを用いた受験についても特に大きな問題はありませんでした。例えば、2018年度のアンケートでは、約8割が「自分のスピーキング力が適切に測られたと感じる」と回答しました(資料9)。さらに、自らのスピーキング力について「課題が見つかった」「学習意欲が向上した」との回答も7割を超え、テストが今後の英語学習に対するモチベーションになっていることも伺えました。

(資料9)



ライティングテストもコンピュータ方式での実施を目指し、2018年度、2019年度に本学の学部生・院生を対象にパイロットテストを行いました。大学入試への導入については慎重に見極めていく考えです。

私たちの経験から、独自のSWテストを教育プログラムにうまく組み込むことで、学生の発信力や英語学習への意識は確実に向上すると考えられます。しかし、独自テストの開発・運営には相当の予算、人材、担当者の覚悟が必要で、教育機関での実施は現実的ではないかもしれません。TOEIC[®] Speaking & Writing Testsをはじめとする様々なテストがありますので、それらの活用も1つの選択肢だと思います。その際は、そのテストで何が測れるのか、どの範囲のレベルを判別できるかなどを考慮し、それぞれの教育機関に合ったテストを選ばれるのが最も重要だと考えます。

質疑応答

Q 今後の大学全体の国際化に関する構想はありますか。

A 本日紹介した取り組みの他に、留学を触発するようなインターナショナルウィークを1、2週間ほど実施しようとしています。英語だけで授業を受けて学位を取得できる大学院の国際科学技術コースも、人数を増やそうと考えています。

また、ヨーロッパの複数の大学と共同して、3つの大学からそれぞれの学位を取得できる「マルチディグリーシステム」を準備しています。新型コロナウイルス感染症拡大により国際活動が停滞する中、オンライン留学にも着目しています。英語科の先生方と協力しながら、ヨーロッパなどの大学の学生たちとグループワークをするような取り組みを広めていきたいと考えています。

Q 学部3、4年生の取り組みが課題とのことでしたが、TOEIC L&Rの受験を含めて何か対策はお考えですか。

A 3、4年生になると専門科目や研究室活動が増えるため、なかなか英語学習のための時間が取れません。しかしながら、大学院入試や就職活動でTOEIC L&Rスコアが求められるといった理由から、英語を学ぶモチベーションは高いという実情もあります。ですから、専用の授業科目を設けるのではなく、例えばeラーニングを学内の学生であれば誰でも使えるように整備することも方策の1つかと思います。

また、3年生の時点で大学院の合格が決まる「3×3(スリーバイスリー)」という本学独自のシステムを活用すれば、4年生のときに大学院の英語科目を前倒して履修することができます。基本的には自律学習を支援するかたちで、今後の展開を進めていければと考えています。

Q 発信力を成績評価に加えたことによる良い変化、結果はありましたか。

A これは学生の解答音声を聞くと明らかです。スピーキングテスト導入当初と比べて、学生の発話量が多くなり、言い淀みも少なくなっています。重要なのは、日頃の教育プログラムの中に、いかにSWテストをうまく組み込むかだと考えています。

発行月：2021年 5月

発 行：一般財団法人 国際ビジネスコミュニケーション協会 (IIBC)

東京

〒100-0014 東京都千代田区永田町 2-14-2 山王グランドビル
TEL (03) 5521-5012

名古屋

〒460-0003 愛知県名古屋市中区錦 2-4-3 錦パークビル
TEL (052) 220-0282

大阪

〒541-0059 大阪府大阪市中央区博労町 3-6-1 御堂筋エスジービル
TEL (06) 6258-0222

公式サイト

<https://www.iibc-global.org>

ETS, the ETS logo, PROPELL, TOEIC and TOEIC BRIDGE are registered trademarks of ETS, Princeton, New Jersey, USA, and used in Japan under license. Portions are copyrighted by ETS and used with permission.

IIBC 世界は、あなたでつながる。

一般財団法人 国際ビジネスコミュニケーション協会
The Institute for International Business Communication